

# 会員だより

## 弥生文化博物館 “見学の感想”

大阪府弥生文化博物館は、日本初の弥生文化に関する博物館で、すぐそばに当時の人々が、暮らした環濠集落である池上曾根遺跡があります。

大阪府弥生文化博物館 1階ロビーで学芸員飯村 円(いいむらまどか)さんに、2階の常設展示室の説明をしてもらいました。展示は、弥生時代のこと



常設室ではマスクをし、貫頭衣を着た弥生夫人像がお出迎え！

音声ガイドのイヤホンを借りる)、館内を行ったり来たりして見学しました。

復元した竪穴住居の中は、当時の暮らしがありました。真ん中には炉が作られ、まわりに土器、出入り口には犬もおりました。家族団らんの温かみを感じました。

まず目を引いたのは、弥生時代からはじまったとされている米つくりをす



春の水田 鋤や鍬を使い踏耕をし、右の苗代から運んだ苗の田植えもしている

る村の精巧なジオラマの風景です。まず村人が大勢水田に出て田作りから始まり、苗代から苗が運ばれ水の張られた水田に移植されています。

収穫の秋を迎えると、稲穂の刈り取り、稲穂を乾燥させ、穂のまま、高床倉庫に収める様子、様々な弥生人のはたらく姿、楽し気な子どものがたも展示されています。



秋の水田 石包丁で稔った稲穂から摘み取ります

当時の道具類も展示されています。見て感じたことは米作りに関して、現在とあまり変わりがないのではと思います。

「米」という字をよく見ると「八、十、八」から成り立っていますよね。漢字からお米づくりは「八十八」(88)の工程から成ると言われています。



煮たり焼いたり蒸したりして柔らかい食べ物を食べるようになった

館で頂いた資料「カイトとリュウさんのやよい解説」の「弥生人のすがた」で顔の輪郭の変化が良くわかりました。

でも、1番感動し、楽しかったのは、わが高槻市の安満遺跡で見た卑弥呼の実物大を見た時です。



鏡を掲げる 卑弥呼



大型掘立柱建物・割り抜き井戸

彼女の食卓は海のもの、山のもの、いろいろのついた赤米の上デザートの甘いもの、どれをとっても現在の料亭にひけをとらないものでした。色彩的にも鮮やかで・季節感・土地柄・見事でした。

## 第18回たかつきNPO協働フェスタ 今こそひろげよう NPOの輪 ～みんなの笑顔をつなげたい～ (出展作品準備お願い)

会長 大岡成一

「たかつきNPO協働フェスタ」が3年ぶりに開催されます。

○開始日時：年9月11日(日)

10時～15時

○開始場所：高槻市役所総合庁舎

1階 展示ホール・総合庁舎前

VG 槻輪は、例年通り立体展示とフリマ出店を予定しています。

○VG 槻輪の展示場所は、展示ホール中央部

○VG 槻輪のフリマ出店場所は、総合庁舎

入口右側です。

下記の準備を始めて下さい。

### 1. VG 槻輪活動報告

各行事の活動写真をウチワにし、見て楽しみ、手にとって観賞しよう！！

### 2. 展示作品準備

1) 自分のウチワ・扇子・カレンダーなどを作り出展して下さい。

2) 各種手芸品等を作成し出展下さい。

※ 楽しい作品を展示しましょう！！

会員の方には別途詳細に連絡します。

奥へ進むと村々の戦いの場面もなまなましいものでした。死者をほうむり、木棺土器棺もありました。弥生人のコーナーでは、縄紋人、弥生人、古墳人の顔の比較をしていました。



卑弥呼の食卓

焼く・煮る・蒸す・和える・炒める料理

美しくてかわいげで女性らしいすがたでした。なのに村々の長をかしくか、政治を司り、大國中国の魏に使いを出し、歴史に名を残す神秘的な女王として、君臨したことが不思議で見とれました。

高槻を出て4時間程で弥生と令和を旅したことになります。安満遺跡のもっと資料を読んで調べて臨めば、その良さが再認識できるだろうと思えました。

記：宝角弘枝